

忍び寄る亡霊

★滋賀県 湖東 愛知川
☆御池川

「ツチエ・・・」

舌鼓を打ち溜息をつくときメガネが一瞬で曇る。霧雨交じりの川の中でさつきから三回連続で掛からない。毛鉤を手に取り針先を確認し、少し移動して次なるポイントへのキャスト・・・その前に、後ろを確認せなあかんわ・・・と振りかえった。

「うぐわあ・・・」

誰も居ないはずの川の中に一人のフライフィッシャーが突っ立っている。

しかも、そのままバックキャストでもしようものなら、その男の頭上にロッドがかぶってしまふ様な距離だ。当然サイドキャストならその男をたいてしまう。

私「・・・ああ・・・びっくりした。上がって来はったんでっか？」

男「エエ・・・」

私「すみません・・・気が付かんで・・・そこから入ったとこですわ・・・あきまへん、3回連続外しっぱなし・・・」

男「・・・」と全く人の話を聞いてない。私「釣れましたあ？」

男「・・・」と無言で軽く一瞬微笑み、また無表情に戻る。

私「遠慮なく・・・」と不気味になって手を上流に差し出した。

すると、言い終わるか終わらないか・・・瞬く間にツツウと前に出たかと思えば、ものすごいスピードで叩きあがり、あつと言う間に上流に釣り上がって行く。

しかもその男はフライロッドを片手で握り、棒立ちのままリーダーエッジ程のラインをひっきりなしにポイントに打ち付けている。

流すという行為ではなく、釘を打つハンマーの様に常に振っており、忙しなくとも釣りは思えない。

私の進行スピードは結構速いと仲間と言うが、まず、この男の釣りあがるスピードときたら半端ではない。普通に道を歩くスピードよりやや遅いぐらいで

淡々と釣り上がっていく。

やがて、曇

ったメガネを拭き終わって、上流を見ると既に姿は消えさせていた。

先行者とか、

追い越されたとか、割って入られたとか、その様な意識は無く・・・一瞬、狐にでもつままれたか？亡霊をみたか？・・・この場で起こったことが信じられない状況だった。

「なんじゃ？あのおっさん・・・」

川から上がり、私より300m程上流から入った仲間と合流し昼食をとる。

「おっさん上がってけえへんかった？」

「来たあ・・・ええ・・・自分とこまで上がったんか？たったこんな短い時間の間に・・・」

「来た来た・・・振り向いたら突っ立っとなねん・・・びっくりするでええ」

「亡霊みたいなおっさんやろ・・・カップ着てハットかぶって・・・」

「そうそう・・・」

それから暫く、行く度に毎回と言う訳ではなかったものの、君ヶ畑周辺で釣りをしていると晴れでも雨でもカップを着てハットをかぶり、下流から忍び寄りと、瞬く間に前に出て上流に消えていくというフライフィッシャーと遭遇した。

我々の仲間内ではいつしか「亡霊ジジイ」で話を通じる様になっていた。

毎回、必ず下手から忍び寄り、振り返ると驚かされ、そして上流に消えていく。川から上がったも辺りに入渓者らしき車も無い。果たしてこれは本当に釣り人なのか？それとも亡霊か？



「今日も出るかなあ？亡霊ジジイ？・・・」

(居るかなあ〜と言わない所がスゴイ・・・)

「どうかなあ〜」

君ヶ畑の集落の上流にある分校前に車を停めるつもりで御池川沿いの上がると、停める予定の分校前に車が一台停まっている。

一目で釣り人が準備しているとわかり、近づくと・・・

「おい・・・出たあ〜亡霊ジジイや〜」

「うそあ？ホンマや〜」・・・と車中大騒動・・・車を少し先に止めて川を見るそぶりで見ると、亡霊ジジイは例のキャパを着てハットをかぶりウェイダーを履いているところだった。

「入られますん？」

「エエ、ここから入るんで少し距離を開けてください。」

(勝手なことを・・・さんざん人を追い越していつ？と言っと思いをかき消す様に、少し???)このおっさんの少しってどんだけの距離やねん?)と思うが早いか勝手に口から突いて出た。「少しって?」

「・・・」と無言で軽く一瞬微笑み、また無表情に戻る。

快晴の昼前にも係らず背筋が凍りつく感覚が湧いて出て、何も言わずにその場を立ち去った。

「行っか?場所かえよ・・・」ニニは固からにしょ〜か!」と車に乗り込みUターン・・・

「亡霊とちごたけど・・・なんや、薄気味悪いおっさんやのう〜」

「今戻ったらおらへんのと違うか?」

「んな、アホなことあるかい(笑)」

それ以来、何故だか亡霊ジジイは現れなくな

■御池川のご案内

個人的には花崗岩の川が大好きで愛知川上流にはよく釣りに行く。

花崗岩の川となれば、本流か神崎、八風谷になつてしまいが、愛知川上流三河川の神崎・茶屋・御池の中では、釣果を求めて御池に入る事が多い。

何年かに一度、大水のせいか川が砂で埋まることもあるが、それを繰り返しながらもしっかりと釣果が得られる川・・・というイメージ(年により多少の差はあれ安定していると考えている。)が強い。

中でも最上流にある



集落の君ヶ畑上流が入渓しやすく、お気に入りのポイントとなっている。

しかし、入渓ししやすい分釣り人も多く、君ヶ畑の集落を越えてひとカーブ曲がった先にある赤い小橋から堰堤までを釣り上げる者が多い様に思う。そのお陰で集落から赤い小橋まで、加えて集落の裏は比較的魚影があり、竿抜けも多い。特に君ヶ畑集落上手の分校前から入るよりも、集落下手のお墓か、中ほどのテポスト前から入り、集落の裏を釣るのが釣果が伸びると思

っている。近年、集落裏の対岸の崖が崩れ、絶好の一級ポイントが埋まってしまったが、まだどこかで年が巡り、この辺りでよい釣りが出来ると信じている。

上流の堰堤から上も釣れることは釣れるが、その更に上流の堰堤(その上流で川が二手に分かれる)の手前に架かる橋から堰堤までも結構魚が溜まる年も多い。

以前、9月に君ヶ畑と赤い小橋の間でリアマゴを上げたこともあるが、アベレージとしてはイワナもアマゴも15cm程度、愛知川では他と比べて水温の上がり早く、4月頭でドライで行ける。

但し、湿気が多い日は蛭に気をつけること。まず確実に忍び寄ってくる(間違いない!)しかし、亡霊ジジイよりはましかも知れない。

2006年 4月